

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13394

研究課題名(和文) 平安時代文学作品における仏教的事項についての研究

研究課題名(英文) A study of Buddhist phenomena in the literary works of the Heian period

研究代表者

春日 美穂 (Kasuga, Miho)

大正大学・教育開発推進センター・専任講師

研究者番号：50734456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、平安時代の文学作品における仏教的な事項について検証するものである。本研究の成果は、『源氏物語』『紫式部日記』の仏教的事項、関連する人物、該当場面を検索できるデータベースを作成しホームページ上で公開した、論文、口頭発表、ポスター発表の形で成果を公開した、平安時代の仏教的事項にかかわる講演会と展示を開催し、一般に公開した、の3点が挙げられる。特に では、データベースを使用しながら、『源氏物語』の五壇の御修法にかかわる論文において、当時の仏教的事項と物語との関連をまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の『源氏物語』『紫式部日記』をはじめとする古典文学のデータベースは、基本的に語彙と掲出箇所を検索するものであった。しかし、本研究において作成したデータベースは、仏教的事項、関連する人物、該当場面を複合的に検索できるものとした。また、それをホームページ上で公開することで、多くの人のアクセスを可能にしたことが社会的意義としてあげられる。学術的意義としては、以上のデータベースを作成することで、仏教的事項を抽出する作業を行い、今後も研究を進展させるべき項目を浮かび上がらせたことにある。本研究ではその一端として、御願寺や五壇の御修法について検証した。

研究成果の概要(英文)：The present study examines Buddhist phenomena in literary works from the Heian period. Three primary results have been created: a searchable database of Buddhist phenomena, related characters, and corresponding scenes in The Tale of Genji and The Diary of Lady Murasaki was created and made digitally available to the public, the results were published as articles, oral presentations, and poster presentations, and a lecture and exhibition were held regarding Buddhist phenomena in the Heian period were held; these were made available to the public. As part of the published pieces, we authored an article on the Godan no mizuhou in The Tale of Genji using the database mentioned in the first result to summarize the links between the tale and Buddhist phenomena at the time.

研究分野：日本文学

キーワード：源氏物語 紫式部日記 仏教学 平安文学 データベース

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平安時代の文学作品には、仏教の影響が多くみられる。しかし、その実態は明らかになっていないものも多い。たとえば、『枕草子』第122段「修法は」(小学館刊新編日本古典文学全集)には、「修法は、奈良がた」という本文があるが、現代注釈書のなかには、現代の仏教における宗派の問題と関係させて注を付すものもあり、解釈が難しい章段であるとされる。しかし、仏教学の見地からは、興福寺等で修法が行われることは当然のことであり、不審な点のない章段であると知った。以上のような、平安時代の文学作品における仏教的な事項について、文学研究からのアプローチだけではなく、仏教学研究からのアプローチも含めて検証を行うことで、その作品や場面の理解を進める必要があるのではないかと考えた。

また、『源氏物語』朱雀帝が出家した「西山」の准拠として、古注釈から仁和寺が挙げられている。しかし、中古、中世の西山の用例を検索すると、直接的に仁和寺を指す例がないことを知った。こうした、現在の研究の前提となっている点についても、仏教学の見地をいかにしながら見直す必要があるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、平安時代の文学作品の仏教的な事項について、仏教学の知見を導入して再検討し、それを文学作品に還元することで、場面や状況の理解をより深め、作品理解を更新することを目的とするものである。具体的な研究の目的は以下のとおりである。

現在文学研究史上、解釈不能、あるいは解釈が困難とされている仏教的な事項の洗い出し事項の洗い出しとともに、注釈も確認しながら問題箇所の検証を行う。その結果を、『源氏物語』『紫式部日記』の仏教的な事項についてのデータベースを作成し、公開する
解釈不能、解釈が困難とされている箇所について、仏教学の知見を導入しての再検討 論文やポスター発表の形で公表する

以上2点を行うなかで、仏教学の研究者、及び、日本文学における他時代の仏教学的な事項を中心として扱う研究者と情報交換を行う。また、そうした知見を内外で共有するために、研究会を行う。

3. 研究の方法

本研究は、平安時代の文学作品における仏教的な事項について、特に、解釈の困難な箇所や問題を含む箇所について検証することを目的としている。そのため、まず、上記の事項を検出したうえで、検証する必要がある。その方法は以下のとおりである。

(1) 平安時代の仏教的な事項について検証するために、仏教的な事項の整理を行う。整理を行う際には、サンプルを多く採取できる『源氏物語』を対象作品として選択する。整理した内容の検証を容易にするために、データベースを作成することを目指す。データベース作成のためのテスト版として『紫式部日記』についても仏教的な事項の整理を行ってデータベースを作成し、『源氏物語』のデータベースにつなげる。

(2) データベースの作成をもとに、解釈が困難な箇所や問題のある箇所を抽出し、検証する。

(3)(2)の箇所について仏教学からの専門知識提供を得る。

(4)(2)の箇所について論文や口頭発表としてまとめる。

4. 研究成果

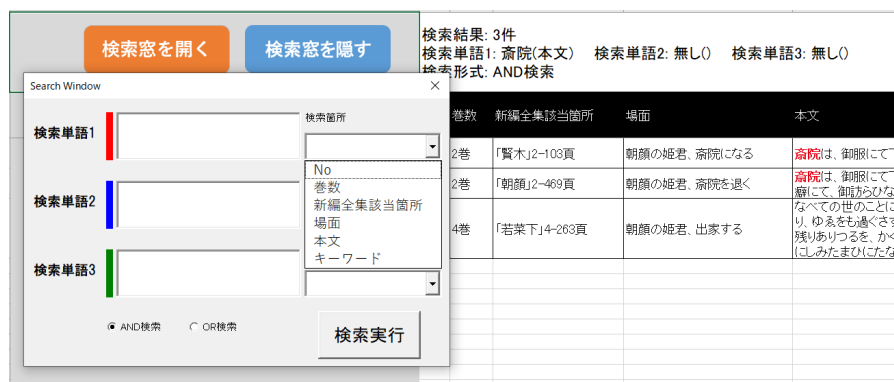
(1) データベースの作成と公開

仏教的な事項について、該当箇所を確認するだけではなく、その内実の問題点を明らかにしやすいように、事項とそれにかかわる登場人物もあわせて検索できる『源氏物語』と『紫式部日記』のデータベースを作成し、ホームページ上で公開した。あわせて、データベースの作成には仏教学の知見や社会学の知見を取り入れることにより、他の学問分野との連携を行った。(4)-2の成果を出すためにも使用し、その有用性を確認した。

一方で、データベースの作成において、使用本文と著作権の問題をどのようにすればよいかという問題が発生した。今回は、渋谷栄一氏のご協力を得て本文を使用したが、他作品にまで視野を広げる際、本文をどうするかという課題が浮かび上がったことは、今後の研究に引き継ぐ問題であるといえる。

(1) - 1

実際のデータベースの検索画面は以下のとおりである。様々な項目から検索することができるようになっている。



(2)(1) についての発表

国際日本文学研究会において、(1)のデータベースについてポスター発表することをおし、データベースの普及につとめた。また、2019年3月の成果報告の際にも報告し、周知につとめた。

(3) 仏教学からの知見

仏教学や寺院とかかわる研究者から専門知識の提供を受け、それを論文や発表にいかした。また、研究者を招いた講演会を行い、成果の公表につとめた。

(4) 論文の主たる成果

(4) - 1 『源氏物語』の朱雀帝が出家する寺が「西山」とされることについて、検証を行った。中古、中世の文学作品において、「西山」に仁和寺を指す例がないこと、御願寺の建立や退位時の状況の類似から、朱雀帝の准拠にかかわり、清和天皇についても検討すべきであることを明らかにした。

(4) - 2 「五壇の御修法」の例が平安時代の文学作品に少なく、また、『源氏物語』における五壇の御修法の実施背景が不明なことについて、当時の五壇の御修法の調伏法としての役割に注目する仏教学的知見を組み入れ、桐壺帝の霊の出現が「賢木」巻から起こっていたことを明らかにした。『源氏物語』は、他の中古の文学作品にはみられない「仁王会」についても物語に取り入れている。

(4) - 3 研究業績 (論文)

春日美穂「古典文学作品関連番組の授業利用と基礎学力向上 『まんがで読む古典』シリーズを中心に」査読無、『大正大学教育開発推進センター年報』(大正大学) 2、pp9-15、2017年
春日美穂、小菅あすか、高倉明樹子『『源氏物語』における仏教関連用例 「葵」「賢木」
「匂兵部卿」「紅梅」」査読無、『大正大学研究紀要』(大正大学) 103、pp180-198、2018年
春日美穂、林田徹順、三浦諒子、小菅あすか「大正大学図書館蔵『源氏物語(承應三[一六五四]六十巻)』『源氏かるた絵合』『源氏物語かるた』『源氏物語絵巻』解題」査読無、『大正大学研究紀要』(大正大学) 104、pp21-38
春日美穂「清少納言の祈り 『枕草子』における稲荷を始発として」招待有、『朱』(伏見稲荷大社) 62、pp41-54
春日美穂「『源氏物語』藤壺の死 臨終場面における光源氏との関わりから」査読無、『國學院雑誌』120巻8号(國學院大學) pp1-13
春日美穂、林田徹順「大正大学図書館蔵『源氏かるた絵合』(河鍋暁斎画) 解題」招待有、『暁斎』(河鍋暁斎美術館) 128、pp376-378
春日美穂「『源氏物語』朱雀院の譲位 清和天皇譲位宣命との関わりから」査読無、『日本文学論究』79(國學院大學) pp65-74
春日美穂「『源氏物語』賢木」巻の五壇の御修法 桐壺院の霊出現の可能性をめぐって」査読無、『大正大学研究紀要』(大正大学) 104、pp25-39

(4) - 4 研究業績 (発表)

春日美穂「『源氏物語』藤壺の死 光源氏との関わりから」第38回日本文学協会研究発表大会(於金沢大学) 2018年
春日美穂、小菅あすか、高倉明樹子「『源氏物語』『紫式部日記』における仏教関連用例とそのデータ化」第42回国際日本文学研究会(於国文学研究資料館) 2018年

(4)-5 その他

データベース公開 「春日美穂の研究ノートから」 <https://www.mihokasuga.com/>
科学研究費成果報告、及び、講演会（2019年3月9日 於大正大学） 講師：朝川美幸氏
（仁和寺学芸員） 大正大学蔵『源氏物語』をはじめとする貴重書展観を同時開催した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 春日美穂	4. 巻 120巻8号
2. 論文標題 『源氏物語』藤壺の死 臨終場面における光源氏との関わりから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂、林田徹順	4. 巻 128
2. 論文標題 大正大学図書館蔵『源氏かるた絵合』（河鍋暁斎画）解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 暁斎	6. 最初と最後の頁 376-378
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂	4. 巻 79
2. 論文標題 『源氏物語』朱雀院の譲位—清和天皇譲位宣命との関わりから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学論究	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂	4. 巻 105
2. 論文標題 『源氏物語』「賢木」巻の五壇の御修法 桐壺院の霊出現の可能性をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大正大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 25 - 39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂	4. 巻 62
2. 論文標題 清少納言の祈り 『枕草子』における稲荷を始発として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 朱	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂、林田徹順、三浦諒子、小菅あすか	4. 巻 104
2. 論文標題 大正大学図書館蔵『源氏物語(承應三[一六五四]六十巻)』『源氏かるた絵合』『源氏物語かるた』『源氏物語絵巻』解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大正大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 21 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂、小菅あすか、高倉明樹子	4. 巻 103
2. 論文標題 『源氏物語』における仏教関連用例 - 「葵」「賢木」、「匂兵部卿」「紅梅」 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大正大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 180-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 春日美穂	4. 巻 2
2. 論文標題 古典文学作品関連番組の授業利用と基礎学力向上 『まんがで読む古典』シリーズを中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大正大学教育開発推進センター年報	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 春日美穂
2. 発表標題 『源氏物語』藤壺の死 光源氏との関わりから
3. 学会等名 日本文学協会第38回研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 春日美穂、小菅あすか、高倉明樹子
2. 発表標題 『源氏物語』『紫式部日記』における仏教関連用例とそのデータ化
3. 学会等名 第42回国際日本文学研究集会（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

(1)データベースの公開 春日美穂の研究ノートから https://www.mihokasuga.com/
(2)科学研究費成果報告、及び、講演会（2019年3月9日 於大正大学） 講師：朝川美幸氏（仁和寺学芸員） 大正大学蔵『源氏物語』をはじめとする貴重書展観を同時開催した。

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----